

平成 19 年度 第 1 回 ExTEND2005 作用・影響評価検討部会 議事要旨（案）

I 日時：平成 19 年 11 月 6 日（金） 14:00～16:00

II 場所：経済産業省別館 1038 号室

III 出席者（敬称略）：

委員：遠山千春（座長）、斎藤昇二、菅谷芳雄、白石寛明、藤井一則

※欠席委員：原 彰彦

参考人：青山博昭、井口泰泉、江藤千純、鑪迫典久、戸笈 修

事務局：木村環境安全課長他

IV 議題：

1. ExTEND2005 における魚類試験法開発について
2. ExTEND2005 における両生類試験法開発について
3. ExTEND2005 における無脊椎動物試験法開発について
4. 米国 EPA における動向の報告
5. ExTEND2005 における詳細調査の検討について
6. その他

V 議事要旨

(1) 魚類試験法開発について進捗状況が報告された。

【委員からの主な意見】

- ・肝臓中ピテロジェニンの変化、二次性徴の形態学的変化、受精率あるいは産卵数の変化等の内分泌かく乱作用の指標としての有効性については、性転換など予め組み込まれた変化と化学物質の内分泌かく乱作用による影響との見極めが重要になる。
- ・化学物質の内分泌かく乱作用による悪影響を明確に定義していく展開を基盤的研究としても検討願いたい。

(2) 両生類試験法開発について進捗状況が報告された。

【委員からの主な意見】

- ・変態アッセイであれば、変態に影響が出る濃度よりも低い濃度で遺伝子に変化があるかどうかを見るのが妥当である。
- ・テストガイドライン案として OECD に提出する段階で試験に使用する個体数を少なくする工夫も併せて示すとよい。

- ・ニシツメガエルと国内に生息するカエルとの試験・調査結果をリンクさせるデータ取得が必要である。
- (3) 無脊椎動物試験法開発について進捗状況が報告された。
- 【委員からの主な意見】**
- ・最終的に悪影響であるか環境変化に対応した影響であるかについて、他系統のミジンコや他の甲殻類への影響も加味しつつ、本スクリーニングの位置付けについて検討を継続願いたい。
- (4) 米国 EPA の動向として、73 物質の初期リスト案（2006/6/18 公表）等の状況が報告された。
- (5) 詳細調査の検討として、平成17年度に実施した化学物質環境実態調査結果から、内分泌かく乱作用に関連した報告の信頼性評価を実施する物質として15物質を選定した。

以上